

第5回 高知県1漁協の将来像を考える委員会 議事概要

- 日 時 平成30年9月3日（月） 14時～15時30分
- 場 所 高知共済会館「四万十」
- 欠席委員 浦尻委員、木下委員
※ 志磨村委員は、委員を退任（漁協理事退任により委員の要件を満たさなくなったため）
- 議 題 ① 高知県1漁協の将来像に関する提言（案）について
② 提言を進めるための当面のスケジュール（案）について

■ 議事概要

◇ 議題 ①、②：各委員の意見・議論の概要は以下のとおり

- ・ 高知県漁協とすくも湾漁協が中心となっていくことは了解を得ているか？（西内委員）
➢ 高知県漁協とすくも湾漁協の組合員が県内の7割を占めており、そういった漁協が、中心にやっていかなければならないということは十分に理解いただいていると思う。
- ・ 集活センターの位置づけは？（泥谷委員）
➢ 漁協事務所として存続が困難である一方、漁協事務所がなければ地区住民に不便を掛けることも考えられるので、集活センターへの委託を案として示している。（竹内副部長）
- ・ 県漁連や信漁連と県1漁協との関係等は？（泥谷委員）
➢ 水産会館にある団体のほとんどが全国団体に移行しつつあり、信漁連もH32を目処に中四国で合併する話が進んでいる。県漁連に関しては、包括承継は無理でも、徐々に業務を漁協に移すなど、県1漁協構想を進める中でソフトランディングすることが業界全体にとっていいのではないかと考えている。（竹内副部長）
- ・ 集活センターは、収益性のある事業を欲している面もあるので、上手に話を持って行けば、協力は仰げると思う。（泥谷市長）
- ・ 地理的に言うと三津に集約というのはわかるが、三津に3地区の船が入港できるのかとか言った問題も出てくると思う。地元の人たちの思いもあるので、市場統合は慎重に進めてもらいたい。（弘田委員）
➢ 三津の整備に関しては少なくとも9年かかるので、できるだけ早く協議を始めなければならないと考えている。いずれにせよ、地元の声を聞かなければ次のステップには進めないと考えている。（竹内副部長）
- ・ 合併はまだ早いという声をよく聞く。合併すると、漁協のサービスが低下するのではという心配の声も聞く。ただ、高齢化は進んでいるので、いずれは合併しなければならない。県が各単協に出向いて指導することも必要ではないか。（崎山委員）
- ・ 合併を進めて行く上では、今の県漁協の参画基準を見直す必要が出てくるかもしれない。各漁協の役員に相当の説明がないと合併は難しい。市場統合等、案としては良いと思うが、組合員の理解を求めていくのは難しいと思う。（澳本副会長）

- 参画基準については、今のままで良いのか、変更する必要があるのかについて、合併協議会の中で是非議論をしてもらいたい。(竹内副部長)
- これから各漁協に周知をしていって、このスケジュールで進むことができるのか疑問に感じる。前を向いてくれる漁協と、そうではない漁協が想定される中で、こういったスケジュール感を持っているのか、もう一度説明を。(西内委員)
 - 参画基準を満たせない漁協は、H33には間に合わないと思う。それ以外の漁協については、H33を目標とした合併議論に乗るのか乗らないのかについて、早い段階で理事会等で決めてもらいたいと考えている。(竹内副部長)
- 窪津は、合併の話が済んだ一方で、地元には色々な不安等が残っている。スムーズに合併できるよう、今後も指導してもらいたい。(泥谷委員)
 - 隣同士の感情もあろうかと思うので、和やかにいけるよう、努力したい。(竹内副部長)
- 市場や事務所の統合については、地元に対して丁寧に説明をしてもらいたい。今の状況では、全部を新しくする、維持していくというのは困難。(弘田委員)
 - 椎名も三津も市場施設はもう限界に来ている。一方で、三津へ統合する場合、整備に相当の時間がかかる。そういった意味でも、早く地域の合意が整うようにしたい。(竹内副部長)
- このスケジュールは短いように感じる。もう少し長くできないか。(崎山委員)
 - 全てをH33に完了させるということは無理であるが、次の合併はH33年の4月を目標にやってみようということ。漁業者の高齢化等、早く合併しないと持たないところもあるので、そこはあまり間を置かずにやりたい。(竹内副部長)
- 人材育成については？(安岡会長)
 - 全ての職員のレベルアップではなく、経営指導をできる職員を県下に何人か育てようという考え。(竹内副部長)
- 提言の周知を行ったうえで、4月から動き出すということか。(安岡会長)
 - 提言が出た後に、漁協や市町村に対して周知を図っていく。(竹内副部長)
- 未だ19漁協が合併していないこともあり、今の高知県漁協は、他の県から見れば非常に中途半端な県1漁協である。このために色々な制約等もあるので、なるべく早く合併は進めて行かないといけないのかなと思う。高知県漁協は、提言書ができあがったら、理事会でも報告をするなどして組合員にも周知していきたい。員外理事の登用等、今進められている水産改革の中で上手く進められればと考える。(澳本副会長)
 - 水産改革は不透明な部分もあるので、注視しながら、前に進めていきたい。(竹内副部長)